



かわらけ（鎌倉時代）の出土状態  
- 井戸を埋めた土からまとまって出土 -



土師器（平安時代）の出土状態  
- 坏ばかりがまとまって出土 -




須恵器（古墳時代後期）の出土状態  
- 古墳の周溝から出土した -



弥生土器（弥生時代後期）の出土状態  
- 壺形土器を棺として利用したらしい -

宮山中里遺跡と倉見川端遺跡の発掘調査では、それぞれの遺跡で弥生時代後期（約1800年前）に集落が営まれていたことが明らかとなっています。その後、古墳時代後期（約1400年前）には南北に連なる古墳群が造られていたことが判ってきました。平安時代には相模川から少し内陸に入った場所が居住域として主に使われています。中世以降の住居跡（集落）は明らかではありませんが、井戸や畑、区画溝などが発見されています。発掘調査は継続中ですが、調査経過については、当財団の発掘調査成果発表会や年報、寒川町の発掘調査発表会などでも発表しています。



宮山中里遺跡現地見学会資料  
2007.03.03  
財団法人かながわ考古学財団  
〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1  
Tel 045-252-8689

# みやまなかざといせき 宮山中里遺跡

現地見学会資料

2007年3月3日（土）

はじめに

神奈川県高座郡寒川町宮山から倉見にかけての相模川沿いで、さがみ縦貫道路建設工事に伴う事前調査として、宮山中里遺跡および倉見川端遺跡の発掘調査を行っています。この発掘調査は、国土交通省の委託を受けて財団法人かながわ考古学財団が実施しています。

発掘調査は、平成12年10月から平成14年3月に第1次調査が行われ、平成16年4月から第2次調査を実施しています。調査地点はいくつもの地点に分かれていて、工事計画に沿って順次行っています。第1次調査の成果は既にとりまとめられていますが、第2次調査は現地調査継続中であり、出土品等の整理・分析は今後実施する予定です。この資料では、これまでに発掘調査を行った宮山中里遺跡と倉見川端遺跡の主な調査



宮山中里遺跡の位置（5万分の1）

地点の概略と、発見された主な遺構について紹介します。

## 遺跡の立地

相模川左岸（東岸）の沖積微高地に立地しています。この地形は、自然堤防に分類されています。遺跡周辺の現在の標高は約11mで、相模川の水面との高低差は、4m余りあります。

相模川の水位は今では安定していますが、上流の城山ダムが出来るまでは、大雨の後にはしばしば増水し、堤防を越えてあふれることもあったそうです。

## 発見された遺構

これまでの発掘調査で、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世、近世の遺構・遺物が発見されています。

弥生時代の遺構は、竪穴住居跡、環濠、方形周溝墓、溝、土坑などが見つかっています。

古墳時代の遺構は、古墳の周溝（古墳の周りに掘られている溝）などが発見されています。

平安時代から中世の遺構には、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝、井戸、畑跡、墓穴、土坑などが発見されています。

近世の遺構には、溝、道、墓穴、土坑などが発見されている他、堤防も江戸時代に造られた構築物です。



第2次調査 区(宮山中里遺跡)  
古墳周溝と近世の溝、弥生時代の竪穴住居跡



第2次調査 区(倉見川端遺跡)  
古墳周溝と弥生時代の竪穴住居跡



第2次調査 区(倉見川端遺跡)  
古墳周溝と弥生時代の竪穴住居跡ほか



第2次調査 区(倉見川端遺跡)  
古墳周溝と中近世の溝



弥生時代の竪穴住居跡



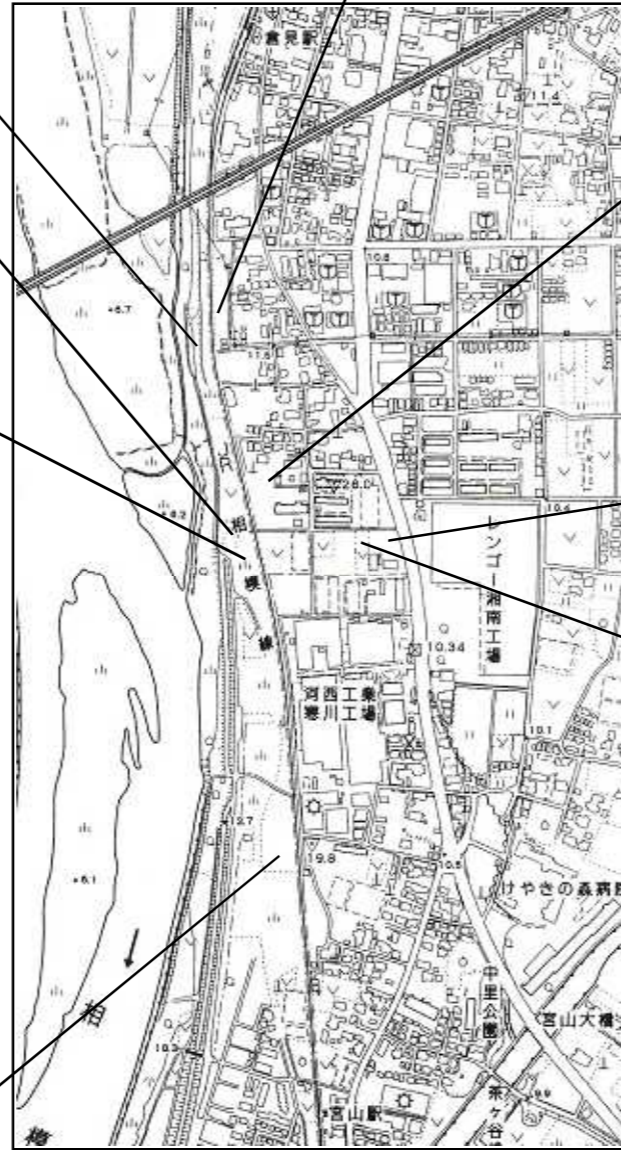
第2次調査 区(宮山中里遺跡)  
古墳群と近世の溝、古代の竪穴住居跡や溝など

前方後円墳



今回の  
発掘調査見学会地点

第1次調査 区(宮山中里遺跡)  
古墳群と弥生時代の環濠集落、中近世の溝など



表土機械掘削と遺構検出作業



人力掘削+ベルトコンベアー



遺構の掘削作業と断面図作成



平安時代の井戸跡



平安時代の竪穴住居跡



掘立柱建物跡  
柱の穴だけが見つかる



第2次調査 区(宮山中里遺跡)  
平安時代の掘立柱建物跡と柱穴群ほか



第2次調査 区(宮山中里遺跡)  
平安時代の竪穴住居跡と掘立柱建物跡など

遺物出土状況平面図の作成

